

シーソー

教科・場面

運動

授業・実践のねらい

上下に動く感覚を感じながら体を動かす。
友達と一緒に活動を楽しむ

対象の児童・生徒

高等部 A 班カプリコーンの生徒7名

【C 類型】 重度重複スコア 要求表出・人間関係
共にⅡ～Ⅳ程度

- ・手すりを両手で握ることができ、手すりがあれば座位姿勢が保持できる。
- ・授業では、個々で活動することが多く、【友達と一緒に】【友達を意識する】経験が不足している。友達が活動している様子を見続けることは難しい。
- ・体を動かす活動を好み、興味を持ってくれることが多いが、今回のような初めての教材や動きに対して恐怖心や不安感を抱く生徒が多い。

教材・教具



3点セット

- ① 乗る長い木
- ② 支点の台
- ③ 高さを出す台

保管場所：ホール

工夫したところ

生徒の体格に合わせて、高さや座るスペースを調節した。友達と向き合って取り組むために両側に手すりを設置した。

授業展開・教材の使い方・実践の内容など

① シーソーの上下運動を体験する

教員が体験する（見本＋支援へ活かすため）⇒ 個々に応じた乗り方を一緒に考える

② シーソーに慣れる

生徒が楽しいと感じる方法で繰り返し取り組む。（スピードや声掛け）⇒ 「自分から乗りたい！！」

③ 乗り方や体の動きを覚える

生徒の動きが出るように設定や教材、支援方法を工夫する。（高さ、シーソー下のマットなど）

⇒ 手すりを持つ、乗るときに足を上げる、背中が伸びる、地面を蹴るなどの動きが出てくる

④ 2人で乗る

BGM を流して雰囲気を出し、楽しさを感じられるようにする。⇒ 笑顔が増える

授業・実践を通じた児童生徒の変容

乗ることを嫌がっていた生徒が自分からシーソーに近づいてまたがったり、乗ってられる時間が長くなったりした。友達と向かい合って乗ることで友達を見たり、意識したりする様子が見られるようになった。体の動きの面では、地面に足が着くタイミングで足首を動かしたり、地面を蹴ったりする動きが出るようになった。